

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.104	2017 年 4 月号	郵便振り込み口座 00910-9-106532
編集人 (社福) ゆうとおん ゆうとおん編集員会 八尾市久宝園 2-30-4		

一九九二年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価 50 円



長岡 利彦(ながおか・としひこ)
八尾市生まれ。30歳の時ゆうとおんに出会
い通所歴は 22 年になる。グループホームで
生活。趣味はファッションや車で、休日のプ
ラモデル組み立ては何よりの息抜き。52歳。

今はまじめになっただけで、若いときはヤンキーやった。タバコ吸ったりバイク乗り回したり。暴走族やった。よう遊んだなあ。ファッションには結構こつている。通販の雑誌見て、これいいなあとか。写真撮るっていうから決めてきた。こだわりあるねん。今日のポイントは赤のネクタイやな。時計の色も合わせてトータルコーディネート(笑)。友だちに誘われ他からゆうとおんに移ってきた。給料が良かったし、バンド活動があったから。にぎやかで、みんな優しい。職員も話をちゃんと聞いてくれるし対応もいい。

ここで、生きる

人シリーズ No. 1



いま紙すき班で仕事している。若いメンバーは口悪いけど、おれ、あんまり怒らへん。職員がいい返していいっていうけど、腹立たないねん。話をあわせるの、うまいほうかな。ユーモアあって、どうしたらそんな大人になれるかって思うから。人が好き。子どもも好き。街で小さい子に「バイバイ！」って声をかけて親から「ありがとうございます」といわれたこともある。

もちろん女性も好き。大好き(笑)。いま付き合っている人とは、ホームで毎晩7時から8時までいっしょに過ごしてる。テレビ見たりトランプしたり、土日は毎週外でデート。おれ、女性にはお金払わせない。ワリカン嫌やねん。絶対いや。かっこ悪い。

昔のゆうとおんより、いまのほうが好き。人が増えたし。人としゃべるの好きやから。先のこと考えたら体のことで不安なときもある。たまにイライラすることもあ。でも、やっぱり、おれ、いま幸せって思う。

(聞き手・島袋)

目次

- ・特集 ゆうとおんの「いっぴん」紹介 …… 2
- ・グループホーム「わらゆん」(高田 圭) …… 8
- ・就労 B 型「うえーぶ」(福井 志朗) …… 4
- ・ギャラリー&フリースペース
- ・就労 B 型・生活介護「はーと」(山本 寿) …… 5
- ・「ありありす」(土橋 恵子) …… 9
- ・就労 B 型・生活介護「ほーぷ」(富澤 久美子) …… 6
- ・当世作業所事情(畑 健次郎) …… 10
- ・相談支援「のびやか」(M. K) …… 7
- ・連続学習会のご案内 …… 12

ゆうとおんの いっぴん 紹介

NEW コーナーです♪

このコーナーでは、こだわりの「いっぴん」を詳しくご紹介していきます

ゆうとおんでは、安心して食べていただけるよう添加物を一切使用していません。こだわりぬいたオーガニックの材料をすべての商品に使用しています。写真・デザイン：羽月朝



くるみあんぱん
マル・デ・レーズ

マル・デ・ゴマ

いっぴん

いっぴん

いっぴん

いっぴん販売 MAP



- ★ ゆうとおんうえーぶ 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4
- ★ ゆうとおんはーと 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1
- ★ ゆうとおんほーぶ shopありあり 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2
- ★ スタコラハウス 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11

■ アクセス ■ 近鉄電車大飯線「近鉄八尾駅」西口より徒歩5分
 ■ 営業時間 ■ 10:00 ~ 17:00 / 定休日: 土・日・祝
 ■ 取り扱い商品 ■ クッキー / ラスク / かりんとう / マドレーヌ
 雑貨 (さをりを使った小物 / 紙すき製品)
 オーガニックコーヒー・紅茶 等

ワンコインランチも
ありますよ♪





クッキーの **人気No.1** ひまわりの種 90g/300個

「ひまわりの種クッキー」は、慣れた手つきでメンバーさんがひとつずつ丸めて、一口サイズのころころとした形にしています。一番人気です。市内保育所の子どもたちが毎月楽しみにしてくれるのが大人気の「キッズクッキー」。アレルギーがあっても食べられるよう卵や大豆、乳製品を使っていません。ちょっと甘いのは苦手という方には「チーズスティック」がおススメです。お酒のつまみにいいと男性のお客様からご好評いただいています。4gを計量してスティック状に伸ばすのは、こちらもメンバーさんの仕事です。

(クッキー班・島袋)

こだわりの原料

- ・小麦粉 (ドルチェ北海道産・江別製粉)
- ・砂糖 (粗糖・種子島産)
- ・塩 (赤穂の天塩)
- ・バター / チーズ (北海道産・よつ葉乳業)
- ・たまご (和歌山県産・蒼生舎の平飼卵)
- ・その他有機栽培食材 (ひまわりの種・レーズン・くるみ・ごま・ココアパウダー)

- アクセス■ ゆうとおんうーぶ ※住所は右ページの全体MAPをご覧ください
近鉄電車大阪線「久宝寺口」「弥刀」駅より徒歩10分
- 営業時間■ 10:00 ~ 16:00 / 定休日: 土・日 (祝日は営業)
- その他販売場所■ マル・デ・カフェ / スタコラハウス / Shopありありす / 八尾市役所・地下1階売店前 (第3を除く木曜日・11:00 ~ 14:00) 等

お問い合わせ・ご注文
TEL:072-926-1543
FAX:072-921-8883

運がいいと焼きたてクッキーの試食もできますよ!
個性豊かな楽しいメンバーとスタッフがお出迎えいたします。

※2017年4月より内容量・価格等の変更があります。



外はサクッと中はしっとり メロンパン 1個 / 140個

ご予約
受けたまわります

パンの行程はいろいろあって一人ひとりの得意なところを活かせる仕事です。経験が長く全行程をほとんど一人でこなせる方もいますし、丸めたりのばしたり切ったりを担当する方、オープンを担当する人などさまざまです。さっさというか、てきぱきというか、その日に作るパンが変わっても、みなさん対応できる方ばかりです

大事にしているのは、食べて下さる方のことを考え、おいしいもの、質の高いものを作ること。それと、みんなで和気あいあい仕事したいし、個人の力を伸ばしてもらいたいことです

(ぱん工房・中谷)

こだわりの原料

- ・小麦粉 (三重県産・にしのかおり / ドルチェ北海道産・江別製粉)
- ・牛乳・バター (北海道産・よつ葉乳業)
- ・たまご (和歌山県産・蒼生舎の平飼卵)
- ・砂糖 (粗糖・種子島産)
- ・塩 (赤穂の天塩)
- ・野生酵母 (白神こだま酵母)
- ・白神山地の水 (弱酸性の超軟水)

- アクセス■ ゆうとおんはーと / マル・デ・カフェ ※住所は右ページの全体MAPをご覧ください
近鉄電車大阪線「近鉄八尾駅」より近鉄バス「萱振」下車徒歩2分
- 営業時間■ 10:00 ~ 16:00 / 定休日: 土・日 (祝日は営業)
- その他販売場所■ マル・デ・カフェ / スタコラハウス (ラスクのみ)

お問い合わせ・予約・ご注文
TEL:072-926-6200
FAX:072-926-6199

焼きたてパンの販売 12:00 ~ 毎日いろいろなパンが焼きあがります 併設のカフェで美味しいコーヒーと一緒にどうぞ♪



つつい手がのびちゃう!! 黒ゴマかりんとう 1個 / 250個

今年から始まったほーぶかりんとう部門。

まだ手探りな部分もありますが、メンバーのみなさんは、とっても器用でどんどん腕を上げています。いまや作り手としてなくてはならない存在。お客様からご好評をいただいている定番のさとう・しょうが・黒ゴマの3種類に加え、ゆず味など季節の新しい味にもどんどん挑戦していこうと思っています。ぜひ、Shopありありすへお越しください!

(かりんとう部門・中村)



こだわりの原料

- ・小麦粉 (北海道産・江別製粉)
- ・砂糖 (粗糖・種子島産)
- ・塩 (赤穂の天塩)
- ・揚げ油 (国産食用こめ油)
- ・有機黒ゴマ (ポルビア産・有機栽培)
- ・しょうが (千葉県産・菱田の会 / 高知県産)

- アクセス■ ゆうとおんほーぶ / shopありありす ※住所は右ページの全体MAPをご覧ください
近鉄電車大阪線「近鉄八尾駅」より近鉄バス「八尾北高校前」下車すぐ
- 営業時間■ 10:00 ~ 17:00 / 定休日: 土・日 (祝日は営業)
- その他販売場所■ マル・デ・カフェ / スタコラハウス / Shopありありす / 八尾市役所・地下1階売店前 (第3を除く木曜日・11:00 ~ 14:00) 等

お問い合わせ・ご注文
TEL:072-927-1300
FAX:072-927-1301

ほーぶではかりんとうをはじめ6ページで取り上げているコロケや夏季限定でかき氷等新しいものにどんどん挑戦中!

就労継続支援 B 型

ゆうとおんうえーぶ



見えない関係が、「見える化」するとき

先日、帰りのミーティングで、私自身考えさせられる光景を目にしました。司会は前の週に決まっていたMさん。そして名前が入った大きいカードを持って司会のアシスト役だったNさん。最近は聴覚に障がいのある方のために名前入りのカードを提示して全員参加のミーティングを試みています。Mさんの言葉は聞き取りづらい時があったりするのでボディジェスチャーで訴えられます。かたやNさんは言葉による意思疎通が容易で、また積極的で何でも笑いに変えるタイプで目立ちやすいところがあります。

最初Mさんの司会でミーティングは始まりました。Nさんは横でカードを胸元や頭上で見せながら補助的に進行されていました。しかし、いつしかNさんが「〇〇さん、どうやった？」と一人で進行されるようになり（Mさんの表情は不満そうではなく…私にはそう見えましたが）いつしか役割は交代し、Nさんが司会、Mさんがそのサポートといった状態になっていました。

もうひとつ考えさせられた日常の光景を紹介します。いつも送迎の車で一緒のYさん。前号の通信でもふれた女性メンバーの方です。2月14日のバレンタインの日の朝、送迎車の中ではいつものように好きな音楽の話、病院に入院したいという話、芸人との恋愛成就の話などざっくばらんな話が飛び交っていました。すると突然「福井くん、好きやで。チョコレートとかあげへんけど、言葉でええやろ」と言われました。Yさんは独自の世界を持っておられます。決して相手に迎合しない、かといって沈黙していてもその自然な感じが相手を不快にさせない人です。私とYさんは、お互いに自分のペースで交流しています。そんなわけで、Yさんから不意に発せられた言葉は意外でした。普段の会話とは少し違ったものを感じました。

NさんとMさんのやりとりの場面で私が感じたことは、普段から二人は仲が良く互いを知るなかでの出来事で、一定の信頼関係が成立していると推測できるからこそ日常の風景にすぎなかったですが、もしそうでなかったら…そこに落とし穴が潜んでいると感じたことです。人と人との関係は形が見えるものではありません。だからこそ人と人との関係はいじめや虐待等の深刻な問題に繋がっていく危険をはらみます。日常のゆうとおんでもメンバー同士のやりとり、職員とメンバーのやりとりがさまざまな場所で生まれています。特にいじめなどへの発展するケースはメンバー同士の関係で起こることが想定できます。虐待に発展するケースは職員とメンバーとの関係において起こりがちです。そういった関係がいつでも成立しうることを私たちは常に自覚しながら感覚を研ぎ澄ませる努力が必要です。

しかし、こう述べると関係は悪いものだけをイメージしがちですが基本的には肯定的で良いイメージです。人と人は相手と意思を相互に交流し気持ちを交わしながら信頼関係を構築していきます。メンバー同士の関係、職員とメンバーとの関係においても信頼関係を作ることが自然な人間の営みです。私はYさんとの関係では、関係が出来ていると思ったことが一度もありません。むしろ取敢て近づこうとしなくて良いと思ってこれまでYさんとの時間を過ごしてきました。ただ今回意外な発言を受け、少なからずこれまでのYさんとの関係を肯定化できるものだと思えました。見えない関係が、ある時、ふと言葉や行動、態度によって「見える化」する、それがこの福祉の仕事に携わることの魅力ではないでしょうか。

(福井 志朗)

就労継続支援 B 型・生活介護

ゆうとおんはーと

「さをり班」は 2 階北側の奥にあります。さをりの作業工程は、あまり知られていないと思いますが、糸選びに始まり、整経→おさ通し→経通し→巻き取りなどの準備を経て実際の織りに入っていきます。メンバーさんが出来る工程は人によってさまざまですが、自分の出来るところは責任を持って取り組んでいて、見ていてみんなの自負を感じます。なので完成した製品はどれも個性あふれる「たった一つのもの」が出来上がります。



さをりの糸

さて、今回はそこで働く R さんのことを書きたいと思います。彼女が「ゆうとおんはーと」に来て三年が経ちました。口数はとても少なく、ほとんど喋ることはありませんが、本当に全身からあふれんばかりのニコニコ笑顔をみんなに向けてくれます。そんな笑顔を見て、たぶんみんな元気をもらっているのではと感じています。

さをりの作業は、初めてではなく以前からやっていたようで、「はーと」に来た当初から即戦力の腕前でした。最初の頃は私の強さをちょっぴりのぞかせて、他のメンバーさんとの連携が少しスムーズさを欠くこともありましたが、今は彼女なりに折り合いをつけて仕事に取り組んでいます。R さんの織る作品は、パステルカラーを主体にした感性豊かなものが並びます。どれもこれも、日頃見せる明るい笑顔の奥にある繊細さを感じます。周りのことをよく見ていて、実は色々なことをちゃんとわかっている利発さも感じます。彼女のそんな一面は、「はーと」で月 2 回やっている創作活動の中でも発揮され、色鉛筆で綺麗に塗られる淡い色鮮やかな世界は、不思議な世界を想起させ、思わずうなってしまいます。

いつもとびっきりの笑顔で、弾むように元気に歩いている愛くるしい姿と内面にある芸術的な繊細さ、その二つの違うコントラストがまた R さんの魅力を作り出しているように思います。

終礼前のおやつを素早く真っ先に取りに行く R さん、終礼時に今日も仕事 OK と軽く指を立てる R さん、帰りの送迎車に真っ先に向かう R さん、迷いのない姿勢に今日も一日元気をもらいます。ありがとう！

(山本 寿)



さをりのシュシュとペンケース



完成した R さんのさをり作品

就労継続支援 B 型・生活介護

ゆうとおんほーぷ

コロッケづくりが始まった

さあ！自主製品をつくろう…！！」八尾の作業所にはないもの、メンバーさんたちが、楽しく作れそうなもの、と無い知恵をふりしぼって考え出したのが「かりんとう」と「コロッケ」なのだ。コロッケは、みんなで作るには、やっぱりまん丸おだんごが作業しやすいのではと思い、実は、十三に「淀のコロッケ」（ジョブサイトよど）があり、見学にいかせてもらった。本格的な工場並みの設備ときちっと管理された製造の雰囲気には圧倒されながらも、とりあえず、私たちが「つくってみよう！」とやり始めたのがこの絵。



最初に取り組んだのは A さん。彼は、ゆうとおんに入って今年で 4 年目。自分ペースで（基本、人は、誰でもそうですが…）、そのとおりにいかず納得できないと暴言をはいてしまう。イライラがストレートに出て、こちらの対応次第では大爆発！気が乗らないと作業せずにウロウロしている姿もよくみかける。もちろん、関係性の中では、納得して悪かったというときもあるのだが…そんな彼のいいところは、食べるのが大好き、料理も大好き、手先もけっこう器用なこと。「チーズ＋ウィンナー＋ケチャップ＝ピザコロッケ」なんて、数式のように表したり、面白い世界でコロッケづくりが始まった。

「モツアレチーズだ！パセリだ！たまごだ！味見だ！」と、どんどん「こんなの作りたい！」が膨らみ、そのくせ、人とのキャッチボールは苦手なので、こちらも「それはむりやわ〜、あー、あかんあかん…」など、受け入れがたいこともしばしば。それでも、独特な包丁さばきでジャガイモの皮を完璧にむいたり、玉ねぎのみじん切りからひき肉炒め、そして何と言っても、つるんつるんのまん丸に丸められたコロッケ。

その仕事っぷりの見事さにほれほれし、また、本人も「今日は、コロッケか」と、まるでコロッケのためにゆうとおんに来たぞと思えるくらい、はまったのだ。コロッケの日は、作業が終わってからのウロウロもなく、ほーぷ前の道行く人に、「ね〜コロッケ買ってー！！」と大声で営業までやってのける勢いだ。そんなコロッケづくりも、現在は、メンバー 4 人と職員 2 人のチームに進化している。毎回、少し、ごたごたするけれど、A さんもはみ出さない、ほーぷコロッケのように、まん丸なチームになりますように…A さんとみんなのキャッチボールを今後もみていきたい。

（富澤 久美子）



プレーン・カレー・ピザコロッケの 3 種があります。一本の櫛に 3 個（100 円）11 時頃から店頭に並べます。パーティ用のご注文、よろこんで承ります。

相談支援事業所のびやか 職員報告 NO.2

昨年 11 月、「実践上の悩み、問題を解決するために－事例研究について－」と題したゆうとおんの内部研修がありました。内容は「事例研究とは／事例研究の目的、内容、方法、結果とは／事例研究をしてみよう」というものでした。

「事例研究をしてみよう」では、講師の長年の友人(知的障害がある方で、講師とは支援学校で出会いそれ以来 40 年の付き合い、現在は 1 年に 1 回旅行に行く関係)について、自分が老いていく中で今まで通りに付き合うことが出来なくなると思っており、今、何か出来ることはないかとの話があり、講師の心配はまさに相談支援の仕事に関わる部分(講師の支援なき後それを補完する、友人がこの先の生活を安寧に送れるようにとの願い)だと思いました。このお話を聞いて私が 1 番最初に思ったのは、講師の問いかけの意図とはズレていますが「長い年月の中で人には色々起こるけど、それを知っていて、ただその人の側にいるだけで十分なのではないか」ということでした。

個人的な話になりますが、昨年初夏に私が 20 代前半(今から十数年前)に好きでよく聴いていた Hi-STANDARD という音楽グループの曲が突然聴きたくなり、持っていた CD4 枚を聴いたところ、そのうちの 2 枚がとても好きだと感じて家族に話すと「あなたは昔『私はこの 2 枚が好き』と言ってよく聴いていた」と言われました。私は覚えていませんでしたが、その時に何とも言えず心が温かくなって「(何気ないけど)自分のことをずっと長く知っていてくれる人がいるのは安心する」と思いました。同じように感じたことがまた 1 つあり、その年の 11 月に幼馴染と奈良に出かけて、猿沢の池や東大寺に行ったのですが「小学校の修学旅行で来た場所だね、宿泊した旅館がまだある！」と皆で大盛り上がりでした。その日は行く場所行く場所で「ここで集合写真を撮った」等と小学校時代の話が出て、あれから長い年月が経って皆色々あったけれど、それをお互いが知っていて、何が出来るわけではなくてもこうやって側に居ることが、人にとってとてつもなく大きな力になり、有難く、素晴らしいのではないかと思います。

相談支援の担当をさせてもらっていて、メンバーの皆さんと直接関わり一緒に仕事や活動をして時間を過ごしているわけではないのですが、何気ない日常の中で「(自分のことを知っている人の中に)この人もいるな」と思ってもらえるような存在、ずっと関わる中で関係性が出来て安心感を持ってもらえるようになる(何かあった時それがすぐに解決することはないかも知れませんが、話しが出来る安心が大切だと感じています)、そして相談員としての役割が回ってきた時には一緒に考えていきたいと思っています。以前「人(職員)が代わったらまた 1 から説明する。それには慣れている」と話して下さった保護者の方がいらっしました。言いづらいことを話して下さっている方もきっとたくさんおられるだろうと思います。それでも伝えて下さる気持ちをしっかりと受け止め、皆さんと「同じ時間を過ごして(生きて)いく者」として、皆さんや自分の役割にきちんと向き合いながら、ここに居られればと考えています。

(M・K)

ひとこと

O・Y

これから少しずつ暖かくなってきます。冬が嫌いな私にとってはありがたいことなのですが、恐怖の花粉症の季節でもあります。だいたい暑くなる時期まで鼻の調子が悪く、また涼しくなってからも鼻の調子が悪くなります。春と秋という一番季節の良い時期が私にとって、地獄の季節になります…。しかし、睡眠をたくさんとり、疲れを溜めないようにし花粉症なんかには負けず毎日元気に過ごしたいと思っています。

ひとこと

松田 健太

毎年この季節になると、ゆうとおんにもまた 10 代の新しい顔が増えます。僕がまだ 10 代だったのは 20 数年前、まだ携帯電話なんてほとんどの人が持っていない時代。連絡を取れる手段は今よりも限られていました。翻って今では、いつでもどこでも誰とでも、繋がる事が出来る時代。でも人と人が関係性を築いていく難しさは、今も昔も変わらないままです。20 歳以上も年齢の離れた新しい世代の人たちと、これから日々、手探りで関係を築いていながら、楽しい毎日にしていければと思っています。

共同生活援助(グループホーム)

生活の場わらゆん



グループホームで世話人をしてい
る、と言うと、福祉関係でない人から
は『なんじゃ、そりゃ』という顔をさ
れる。どんな内容か説明すると「そう
いうのがあるのね」「優しいから向い
ているかもね」とさっぱり気持ちのこ
もらない感想をいただく。仕事なんだ
から優しいとか何とかは関係ないと
思うが、福祉職という言葉から得られ
るイメージは、どうしても「社会奉仕
とそれに向いている人間性を持つ者」
なのかもしれない。高齢福祉と混同し
ていることも珍しくない。「グループ
ホーム」も「世話人」も一般社会とは
隔離された、よくわからない存在なの
だと感じる。

ここに掲載する文章を頼まれた際
に「障害のある人のグループホーム生
活というものが、一般の人が読んで伝
わりやすい内容にしてほしい」という
要望があった。さんざん考えたが、そ
ういう施設があり、複数の利用者に世
話人がついて生活をしている、くらい
しか書けないような気がしている。
私も、この仕事に就くまではグルー
プホームが何なのか想像できていな

かったし、仕事を始めてみれば大き
な驚きがあった。平日はグループホ
ームと作業所で過ごし、週末は実家
に帰ったり、ガイドを利用するなど
して外出するという生活を、昨月も
昨年も続けていることがわかったか
らだ。

世話人という仕事

高田 圭

しかしその驚きは、利用者も支援
者も、その生活様式を受け入れて、
続けていく意思があることを知る中
で、消えていった。少なくとも、私
が何か考えを挟む余地はなく、生活
はそういうものであるという考えに
落ち着いていった。未だに、利用者
のグループホームでの生活をゼロベ
ースでとらえ直すことはできておら
ず、わからないまま仕事することに
なっている。

当の利用者というと、一人暮らし
を目指すための準備としてとらえて
いる方もいれば、集団生活を楽しみ
にしている方もいて、その捉え方は
様々である。仕事として関わってい
る実感としては、「今の生活を積極的
に崩す気はないが、不満は少なから
ず存在する」という意見が多い気が
する。要するに、健常者も障害者も、
「生活」というものに対する感想に
大して違いはないのではないか。以
前支援に入っていた利用者が、支援
者から「ホームの生活は楽しい？」
と質問され、怪訝な顔をして反応さ
れたことを思い出す。その方がどう
思われたのかわからないが、趣味や
外出ならともかく、『生活』が楽しい
かどうかなんて答えようがなくてそ
んな反応をしたような気がした。

ところで、福祉関係の方にグルー
プホームの世話人をやっていること
を伝えると、「夜とか、ご飯作ったあ
と何やってんの？」と反応されたこ
とがある。近い立場の人であっても、
グループホームの生活というのは外
からよくわからないのだと思う。

ギャラリー&フリースペース ありありす



いろいろな生きることがいっぱいあり、ありす。
なんでもありのありありすが、また冒険をはじめます。
いっしょにやりませんか。食事づくりを手伝っていた
だけのボランティアさんを募集しています。

ボランティアさん募集！

無認可作業所「ゆうとおん」がスタートして21年目の春を迎えます。障害のある人も誰もが自分の役割やしごとをつくることのできる「みんなでつくる働く場」を、また作業所という狭い枠の中に閉じこもることなく垣根を越えて外に出ていくことを、ゆうとおんは活動の中心に置いてきました。

2015年10月、地域に開かれた場、社会への発信拠点として「ギャラリー&フリースペース ありありす」ができました。ゆうとおんは紙すきやさりを織りなど、長年創作活動に取り組んでいます。ギャラリーでは、その作品を展示、活動への意欲に繋げるとともに、作品をアート製品としてもっと販売に繋ぐことができたらと考えています。フリースペースでは、子どもワークショップ、季節ごとのおとな向けのワークショップ、ミニライブや映画会などをもう少し定期的に関き、利用できる場として地域に広げていきたいと思っています。(土橋 恵子)



シャッター（右上写真）に絵を描いて下さった八尾北高校美術部のみなさん



手作りおもちゃ作り

八尾のエジソンさんと手作りおもちゃで遊ぶ



→ロックスマンキー作り



→オープニングパーティのライブ



さをり作品



バルンアートのみなさん



● 当世作業所事情 66

「共に生きる」

とくとうの周辺風景

畑 健次郎

気になったのは、その口調に含まれていた怒気と拒絶の強さでした。私の理性は「帰れ」という言葉は、ゆうとおんが彼にとつてかけがえのない居場所になつていと認識します。私の感情は「お前が帰れ」と言い返しそうになります。理性は再び、追い詰められているのは彼の方なのにと、自分の度量の狭さを嘆きます。

「帰れ！」という言葉でいつも思い出すことがあります。ある時、グループホーム職員の B さんから電話がかかってきました。「私、もうだめです」と涙声でした。グループホームの住人である C さんに「お前なんか帰れ！」ときつく言われたそうです。B さんは「障害者」を取り巻く状況を知らぬわけではありません。C さんたちが差別的な社会のありようの中で、有形無形の屈辱を受けてきたであろうことも理解しています。自分の考えや、やり方をこり押しするようなタイプでもありません。どちらかといえればやさしい人です。

そのことがあつてから間もなく、彼女は職場を去りました。私は彼女のひ弱さを批判することはできませんでした。その時の精神状態にもよると思いますが、障害のあるなしにかかわらず、言葉の響きは他人に致命傷を与えることがあります。さみしがり

で甘えん坊で、ちょっと意地悪なところもある C さんは、今もグループホームで暮らしています。

ゆうとおんは、現在六つのグループホームを運営しています。定員は全部で 30 人です。身体障害の人や精神障害の人がメインのグループホームもありますが、ゆうとおんのグループホームは知的障害の人が中心です。

入居者の利用料は、高い人で 7 万円です。国庫補助が 1 万円あるので実質 6 万円の負担になります。家賃、食費、光熱水費、日用品の一部が含まれています。一級の年金（8 万円強）で、何とかかつかの生活が維持できます。入居者は、それぞれ個室を持っています。そこはプライベート空間なので、職員である世話人も無断で立ち入ることはしません。世話人は食事の提供をはじめ、生活をしていくうえで必要なサポートをします。世話人は夜中の 12 時と早朝の 5 時頃、見回りして、そつと安否確認します。共同生活ですのでやや窮屈なところもありますが、大規模施設や管理優先の所と違って、かなりの自由もあります。日々の生活の中では、入居者同士、入居者と世話人、少し問題ありますが時には世話人同士のいざこざもあります。グループホームを「卒業」して一人暮らしをはじめた人もいます。なかには、気に入った人とカップルの暮らしに移った人もいます。多様な暮らし方の一つがグループホームです。

最近、グループホーム職員の D さんに「私はこの

普段は無口で他のメンバーから離れて黙々と作業をする A くんです。自分がいやでない人とは共同作業もします。一人の時は他人を寄せつけないというオーラを出しています。

以前、金を稼ぎたいという A さんとハローワークに行つたことがあります。それなりの労働能力はありますが、家庭の事情もあつて、一般就労は実現しませんでした。時期的にはその頃から、「おはよう」とあいさつしても、迷惑そうな表情がかえってくるだけになりました。つい最近、思い切つて話しかけてみました。返つてきたのは「くそじじい」、「帰れ」の二言だけでした。

事実じじいだから、くそじじい程度は気になりません。帰れという言葉は好きではありませんが、言葉自体に反応してしまうということはありません。

仕事に向いてないのではないかと問われました。問われている私は内心、「自分こそ対人関係の仕事に向いてないのではないかと自問します。「自分が向いてると思ってる人より、向いてないかも知れないと思ってる人の方が向いてると思う」と、私は自己弁護めいた、訳の分からないことをつぶやいています。好きでやり始めたことですが、「ほんまにこれでいいんやろか」と冷や汗をかくことの連続です。

グループホームのできごとに戻ります。

ある朝、Eさんが世話人のFさんに「ディスコに行つていいか」と聞きました。世話人のFさんは、朝からなにゆうてるんやろうと思いつつも、踊り好きのEさんに「ああ、いいですよ。踊つといいで」と言いました。しばらくすると隣の部屋に引つ込んだEさんの大声が聞こえます。驚いて駆けつけると、血が出ているかどうかわからないのですが、手首を抱えたEさんを発見します。どうやらEさんは「リスカ(リストカット)していいか」と言ったようです。ていねいに巻かれた包帯に満足そうなEさんですが、Fさんからしたら、冷や汗もの的一幕でした。

Eさんの同居人がGさんです。

Gさんは少し前まで、土日は実家に帰っていました。両親が高齢になったこともあって、今ではずっとグループホーム暮らしです。なぜかホームをとてても気に入っています。Gさんは若い頃から人懐っこく、

そして動作はゆっくり、ゆったりしています。ずいぶん前のことですが、Gさんと一緒に出かけた時、喫茶店に寄りました。おいしそうにコーヒ(コアだったかも知れませんが)を味わっているGさんを見ながら、私は次の予定を気にしていました。焦つてないふりをしながら、それとなく急かしますが、Gさんは動じることなく悠々としていました。

先日、高校生の研究発表授業に立ち会う機会がありました。それぞれのグループが、障害当事者との付き合い方を模索するという内容でした。どの生徒たちの発表も勉強の跡がよくわかり、とても興味深く聴かせてもらいました。

ただ一つ残念だったのは、これは彼らのせいではありませんが、障害類型という知識を学ぶところが出発点のような気がしました。生身の付き合いが契機となった報告はありませんでした。無理ないかと思えます。一緒に学んだり遊んだりする機会のある子どもたちのほうが圧倒的に少なくなっているような気がします。発表を聴いていると、大きな可能性を感じるだけに、理解から出発せざるを得ない教育の風景が残念でなりません。

理解することと、体得することの間を流れる川は思つたよりも広くて深いのかも知れません。それでも向こう岸まで泳ごうとする人は必ずでてきます。流れに逆らつても行きたい所があれば、そこに向けて、何度も何度もチャレンジできる社会でありたいものです。

津久井やまゆり園で殺された19人が匿名扱いであつたことが、今も引つかり続けます。植松聖という個人の犯行だとすれば、植松容疑者が殺したのも、固有名詞を持った個人個人です。もし植松容疑者が殺したのが「障害者たち」だとすれば、「植松」も代名詞に変換されます。その代名詞には私たちも含まれています。

努力すれば分かり合えるというのは、幻想にすぎない場面を何度も見てきました。しかし、気に入らない人間とも共存していくための技術の獲得努力と、寛容さを失えば、むき出しの生存競争と排除の論理がまかり通ることも、みんな知っているはずだ。

ゆうとおんは、ささやかでも、一人一人の物語を紡いでいきたいと思えます。



絵：福島正人

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行 定価 50 円

ゆうとおんの思い
 活気があるけれどゆつたりしていて
 真剣だけれどかたくなさくなく
 とりあえずにこうせば
 心と体がホッとする
 どうしてもあきらめず
 道を探してもなかなかみつからない
 そんな 100歩を100歩
 ひくついたらもう100歩にならず
 小さなちがいで100歩ならぬ
 小さなこともないがしるにせず
 失敗も たくさんして
 どんどんしゆつになつてきたい
 一九九六年設立



ゆうとおんの活動に ご支援をお願いいたします

協力会 (年会費 一口 2000 円～)

ゆうとおんは、障害のある人もない人も「みんなでつくるはたらく場」として 1996 年にスタートしました。その前史は、保育所入所運動や地域の普通学級での学びを求める市民運動にあります。いまのゆうとおんは、日々 80 人の障害のある人が活動する大所帯になりました。

私たちは、設立時の思いを地域交流の活動を通してこれからも広げていきたいと思っています。どうか、ゆうとおん活動にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

連続学習会のご案内

= 「支援と関係性」を考える =

『もういちど自閉症の世界に出会う』

監修：エンパワメント・プランニング協会

編者：浜田寿美男/村瀬学/高岡健 (ミネルヴァ書房)

NPO 法人エンパワメント・プランニング協会が 2015 年に主催したセミナーをまとめた表題の本をテキストに使います。連続 6 回の予定です。

2/23 (木) に 1 回目を行いました。村瀬学さんの提起をどう受け止めるのか、職員 2 名のレポート発表をもとに討論をしました。

今後できるだけ議論を中心にした全員参加型の学習会にしたいと思っています。もともと職員研修として企画しましたが、ご家族や外部の方の参加も大歓迎です。

◇2 回目 3/23 (木) P M 6 時～8 時
 ◇3 回目 4/23 (木) P M 6 時～8 時
 以降は未定ですので参加ご希望の方はご連絡下さい。

- ご寄付は、新たなグループホームの建設費や「ありありす」の活動に使わせていただきます。
- 納入方法 同封の振替用紙で郵便局からお振込みをお願いいたします。

社会福祉法人 ゆうとおん

本 部 / 〒581-0824 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとおんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとおんうえーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとおんほーぶ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1 口 2.000 円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階

定 価 / 50 円